

また図15は女子スラローム（SL）の富山県選手と優勝選手との比較である。右側の富山県選手は右ターンに入ろうとしているが、優勝した左側の選手は既に次の左ターンでポールをクリアしている。すなわち完全にゲート1つ前に行かれているのである。このように富山県選手と全国との間には一部の選手を除いてまだまだ高い壁があるように思う。インターハイ後も3月のFISの大会や国内B級大会でビデオ撮影を行った。アルペン競技のバイオメカニクスサポートはまだスタートしたばかりなのでこれから継続的に実施しデータを蓄積していきたいと考えている。

4 おわりに

今回は、ダートフィッシュの機能を用いた現場に直結したバイオメカニクスサポートの例を紹介した。これ以外の種目では先の図5に示した滑川高校ウェイトリフティング部のサポートも行っている。実際にダートフィッシュを使用した感じでは、個人種目ではほとんどの競技で動作分析が可能であると思う。図16はクロスカントリースキーのフォームを示したものである。



図16 クロスカントリースキーの残像

またゲーム分析の機能も内蔵されておりボールを使うチームスポーツでも使用できると思われるので、今後いろいろな競技で有効に活用できたらと考えている。



お問い合わせ

富山県総合体育センター指導課企画情報係(トレーニング室)

〒939-8252 富山市秋ヶ島183(富山空港横)

TEL 076(429)5455

Eメール:palace-tra@sportsnet.pref.toyama.jp(トレーニング室)



(印刷) 有限会社 AT企画印刷